

# 1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年12月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870902091		
法人名	医療法人社団 薫会		
事業所名	甲陽園すみれホーム		
所在地	西宮市神原15番65号 (電話) 0798-73-8881		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成21年4月20日

【情報提供票より】 (20年10月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	24人	常勤12人, 非常勤12人, 常勤換算	14.3

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2,3	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	有( ) 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315円	昼食	588円
	夕食	588円	おやつ	84円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (10月22日現在)

利用者人数	名	男性	名	女性	名	
要介護1	7	要介護2	4			
要介護3	3	要介護4	2			
要介護5	1	要支援2	1			
年齢	平均	83歳	最低	73歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上ヶ原病院
---------	-------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域や家庭との結びつきを重視し、利用者が穏やかで安心して過ごせる事を根本の考えとし、家庭的な雰囲気の中で支援に取り組んでいる。ご利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の行事への参加・近隣小学校との関わりを継続し、生徒との交流や先生の実習の場としてホームを提供している。また、編み物・本の読み聞かせ等アクティビティや買い物などの外出支援でボランティアの協力を得ている。管理者・職員は日々の暮らしの中でご利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるように好みや習慣・「できる事、できない事」などを本人や家族から情報を得て、ホームの暮らしの中に本人の意向が反映されるよう努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	第三者評価のねらいや活用法の理解に努め、前回評価結果はホーム会議等で話し合っている。研修計画の策定や月に1回のモニタリングなどについて検討し具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は職員一人一人がそれぞれのケアを振り返り見直す機会として確認していった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議は2~3ヵ月に1回開催しており、ホームの活動内容・職員の異動状況・利用者の現状等を報告し意見交換を行い、サービスの質確保に活かせるよう働きかけている。参加メンバーからの提案を検討し、ホーム内の催し(マジックショー)の開催が実現できている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族面会時やホーム便りで利用者の様子を伝えるとともに、個々の体調変化に応じて速やかに連絡するよう努めている。家族からの意見・要望についてはホーム内で検討し、改善結果をホーム便りや家族会で伝えている。状況によっては苦情・相談報告書を作成し職員間で検討することでサービスの質向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会主催の盆踊りなど行事に出かけると共に、近隣小学校との関わりが継続され、生徒との交流や先生の実習の場としてホームを提供している。編み物・本の読み聞かせ等アクティビティや買い物などの外出支援でボランティアの協力を得ている。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や家庭との結びつきを重視し、利用者が穏やかで安心の日々を過ごせるよう支援していく事を根本の考えとしており、地域密着型サービスとしての役割を考慮した内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員に対しては理念を基本に新人研修を実施し、日々の業務の中ではケアカンファレンスなどを通じてパート職員を含むすべての職員が理念を共有し実践できるよう取り組んでいる。ホーム内に掲示し浸透を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の盆踊りなどの行事に出かけると共に、近隣小学校との関わりを継続し、生徒との交流や先生の実習の場としてホームを提供している。編み物・本の読み聞かせ等アクティビティや買い物などの外出支援でボランティアの協力を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価のねらいや活用法を理解し、前回評価結果はホーム会議等で改善に向け話し合っている。自己評価は職員一人一人がそれぞれのケアを振り返る機会として確認していった。</p>		<p>評価結果をホーム内に掲示し浸透を図っていく事を検討している。運営推進会議で評価結果を公表し、サービスの質の向上のために助言や支援が得られるよう働きかける事が望ましい。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表・民生委員・市関係者・他グループホーム職員等が参加し、2～3ヵ月に1回の開催になっている。ホームの活動報告・職員の異動状況・利用者の現状等を伝え、意見交換を行っている。会議の参加メンバーからの提案により、ホーム内での催し(マジックショー)の開催が実現できた。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム連絡会において連携があるとともに、日常でもホームの実情を伝え運営面等で話し合い協力関係を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時は、主にリーダーや担当職員が利用者の様子を伝えるとともに、状況に応じては電話等で速やかに連絡するよう取り組んでいる。また2～3ヶ月に1回ホーム便りを発行し家族に配布している。本人の写真等をホーム便りに掲載する事について家族の承諾を得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時などに出された意見・要望を検討し、改善結果についてはホーム便りや家族会で状況を伝えている。苦情・相談内容によっては報告書を作成し、職員間で共有・検討することでサービスの質の向上につなげている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の交代など職員の異動や退職の多い時期もあったが、職員採用時や職場環境の改善等検討し、現在、職員変動は少なくなっている。異動があった場合は、家族面会時に説明し理解が得られるよう取り組んでいる。新人職員に対しては主任やリーダーがフォローする事で、利用者・家族へのダメージを少なくし、馴染みの関係を大切にしていこう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホームに必要なテーマを中心に研修計画を策定し内部研修を実施している。外部研修は状況に応じて参加費・交通費等調整し積極的な参加を勧めている。研修内容についての情報を共有するために研修報告書を作成している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2～3ヶ月に1回開催されるグループホーム連絡会に参加している。連絡会に市の参加もあり、情報提供や助言をもらう等連携を図っている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前のホーム見学により、本人の不安を少なくするよう配慮している。利用者や家族の状況によっては体験入居も実施し、ホームでの生活に徐々に馴染んでもらうよう働きかけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時の聞き取りやホームでの関わりの中で利用者の力量を見極め、食事作り・花壇の世話・ゴミ捨て等ホーム内での役割を無理なく手伝っていただくような場面作りに取り組んでいる。またアクティビティーの中で本人が活躍できるようさりげなく支援している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の現在に至るまでの生活史・好みや習慣・「できる事、できない事」などを本人や家族からの情報で把握し、ホームの暮らしの中に本人の意向が反映されるよう努めている。アセスメントにセンター方式を取り入れ本人主体の支援ができるよう検討している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聞き、アセスメントし職員間で話し合い、本人の視点に立った介護計画を作成している。家族の面会時に計画の説明を行い同意をもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画はケアカンファレンスで定期的に検討し3～6ヶ月毎に介護計画を見直しているが、利用者の状態変化や家族の意向に迅速に対応するために毎月のモニタリングに取り組み始めた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の受診や、入院された方のお見舞い、外泊などを支援している。医療連携体制を整え24時間健康管理を行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は嘱託医が毎週往診に来ている。入居者は月に2回診察を受け健康管理を行っている。また、24時間健康管理体制を行っている。内科以外の受診については家族か職員が同行している。受診状況については家族の面会時に情報交換をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に看取りについて記載されている。入所時に医療が必要となった場合について説明をしているが、利用者の状態変化に応じて家族・医師・職員で話し合いを行っている。施設の構造上（浴室が一般個浴槽）寝たきりになった場合は対応できず車イス対応までであることは入所時に説明している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護について研修計画に挙げ定期的な研修を実施している。契約書に個人情報の取り扱いについて記載し、入所時に家族に説明をし使用同意書をとっている。ケース記録は職員詰め所で記載している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課は大体決まっているが食事時間などは個々の希望に対応している。入居者の希望に個人対応できるようにボランティアの活用も含めた人員配置をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>三食ともホームで作っており、味つけなどは入居者と一緒に行っている。月に1度は外食に出かけている。近くのお好み焼き屋は受け入れも良くよく出かける。メニューによっては食材を止め、寿司を買ってきて盛り付けたりしている。すみれ会全体で毎月食材会議を行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に3回、個浴で入浴し、車イスの利用者はデイサービスの設備を利用している。体調管理のために入浴時間は午前中に行っている。入浴を拒否される方は無理強いせずに次の日に再度声かけをしている。</p>		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を重視し、センター方式を活用して個々の「出来ること」「したい事」をアセスメントし、ホームでの生活での役割を担ってもらっている。アクティビティーでボランティアの協力を得たり、併設しているデイサービスのカラオケに参加する等、個々の気持ちに沿った楽しみ事になるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は入居者が同行できる距離にあるスーパーに行っている。近くのホテルにおやつを食べに行くこともある。2～3人の外出には、駅前の相互タクシーと契約しており、近距離でも拒否なく利用できている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関前は交通量が多く、職員の交代で落ちつかなかったため、今はエレベーターと玄関は施錠している。入居者が外に出たい時は対応していくよう努めている。施錠については入居時に家族に説明をし了解を得ている。		防犯上・事故防止上玄関の施錠は仕方がないが、職員構成が落ち着いた時点でエレベーターは時間を決めて開錠を試みることを期待する。
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼間の消防訓練は行っている。夜間想定については11月に消防設備の点検時に予定している。疑問点は消防署に聴きに行くので人脈ができ、救急法の講習会の要請があり職員が参加した。備蓄の必要性を認識し、発注をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
	28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
	29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
	30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>		

は、重点項目。